

## 連鎖方式に関するよくある質問

12月24日  
経済社会総合研究所  
国民経済計算部

平成16年12月8日より国民経済計算の実質化手法を連鎖方式に移行したところですが、国民経済計算部へ多く寄せられた質問事項について下記の通りとりまとめました。

### 【連鎖方式について】

#### 参照年とは何ですか？

参照年とは、デフレーター=100となる年（金額ベースの実質値を計算する際に参照する名目値の金額を与える年）のことです。英語では「reference year」といいます。現行のGDP（支出系列）では実質値の金額表示の計算にあたって2000暦年の名目値を参照しており、実質値の単位は「2000暦年連鎖価格表示」となっています。

固定基準年方式では、参照年（これまで基準年と呼んでいたものと同じです）を変更すると、各期の成長率が改定されますが、連鎖方式では、参照年を変更しても基本的に各期の伸び率は変わりません。

#### 加法整合性とは何ですか？

例えば、GDPを構成する家計最終消費支出などの内訳項目をすべて加算した結果がGDPの値になることを「加法整合性がある」といいます。固定基準年方式の実質値には加法整合性がありますが、連鎖方式の実質値にはありません（注1）。

したがって、連鎖方式による実質値については単純な足し算・引き算はできません（注2）。また、実質値を用いて割合を計算することにも意味はありません。

（注1）連鎖方式の実質値についても、例外的に、参照年とその翌年の暦年値についてのみ加法整合性が成立します。年度値や四半期値については成立しません。

（注2）「純輸出」については、ゼロやマイナスになる可能性があるため、連鎖方式による実質値が計算できません。このため、（連鎖方式による輸出実質値 - 連鎖方式による輸入実質値）により計算したものを参考として掲載しています。これに対し、純輸出の寄与度は、（輸出の寄与度 - 輸入の寄与度）により正確に計算することができます。このため、純輸出の前期差（前年差等）の符号と寄与度の符号が一致しない場合があります。

#### 連鎖方式による実質値では、各四半期計数と暦年値・年度値との関係はどうなるのですか？

連鎖方式による実質値でも、四半期値の合計は暦年値に一致します。ある一つの系列についてみれば、暦年値も年度値も各四半期値の合計となっています。したがって、半期ごとの計数も四半期値を足しあわせることで求めることができます。

### 【その他】

#### これまで公表していた固定基準年方式のGDP（支出系列）は公表されなくなるのですか？

参考系列として当面の間、公表を行う予定です。1980年1-3月期～1993年10-12月期の実質値計数については、引き続き固定基準年方式（1995暦年基準）による計数が正式系列となります（2003年12月公表）。

1994年1-3月期～直近期については、連鎖方式による実質値が正式系列となり、固定基準年方式による実質値は、参考系列となります。参考系列は2次QE公表の2週間後程度にホームページ上に公

表します。

1993年以前の連鎖方式のGDPはないのですか？

基礎統計の制約や推計作業上の問題から、現時点では遡及推計を行っておりません。いつごろ公表できるかについては今後の作業の進捗状況を踏まえ、お示ししたいと思います。